



《会計・税務の知識》 会計英語について

はじめに

渋谷や新宿を始め日本中で外国人観光客を目にする機会が多くなりました。国策においても、グローバル化を視野に入れた補助制度や支援策が目立つようになってきました。そこで、今回は会計税務の英語について簡単に触れておくと共に、混乱しやすい会計英語について記載しました。

1. よく使われる会計用語

財務諸表	Financial Statement
勘定科目	Account
貸借対照表	Balance Sheet (B/S)
損益計算書	Profit and Loss Statement (P/L) Income statement はより広く収支報告と言う意味合いです。
売上高	Sales
売上原価	Cost of Goods sales (COGS)
売上総利益	Gross Profit (損失は Loss)
当期純利益	Net Income (損失は Loss)
法人税、住民税及び事業税	Corporate Tax または Income Tax
消費税	Consumption Tax
販売管理費	General and Administrative Expense
減価償却費	Depreciation Expense

2. 混乱しやすい会計単語等：

給料：Salaries, Wages, Allowance

Salaries は一般管理費としての給与などで、原価計算に計上しない面があります。年俸給等。一方、Wages は直接人件費等で、時間給や原価計算に対応した人件費がここに当たります。Allowance は、手当の事です。

経費や原価：Cost, Expense

Cost は直接原価という意味が強く、会計を超えて経営の視点から『商売をする為に費やしたお金』と考えた方が良いです。例えば、不動産業であれば、賃貸経営を営むために購入した土地の代金は、” Cost ”になりますが、会計上は資産計上です。一方、Expense は会計上の視点からの費用になります。例えば減価償却費は Expense です。Cost とは言いません。賃貸経営の際に購入した建物の総額

は Cost となり、その内減価償却費となった額が毎年 Expense となるようです。

請求書：Bill, Invoice

Bill は金額と支払期限に重きを置いており、レストランでの支払い明細や水道光熱費の請求明細等になります。一方、Invoice は品物や個数等の詳細に重きを置いているようです。BtoB でのビジネスシーンでは Invoice の方が多いと想像できます。

見積書：Quotation, Estimation

Quotation は引用ですから決まった価格リスト等から必要個数などを集めた結果になります。一方、Estimation は、概算ですから、決まったリストからの引用ではなく、その都度状況に合わせて決めた金額や数量を相手方に提示するものです。

数量：Amount, Quantity, Number

いずれも『量』という意味ですが、1つの単語として使用した場合、Amount は漠然と『量』で、Quantity は『数量』として対象物の数量を指します。Number は『数』として、1、2、3、と数そのものを指します。会計用語としては、Quantity が商品の数量としてふさわしいようです。

金額：Price, Amount

Price は商品単体の価格です。一方、Amount は『総額』となります。請求書等で合計が記載されていますが、Total であつたり Amount であつたりします。(Total は単純に合計という意味になります。)

おわりに

例えば、請求書の金額を聞かれた場合、The price of this invoice is 1million yen. (請求書書式の(販売) 価格は100万円です。) と答えなくて、The amount of/on this invoice is 1million yen. (請求書に記載されている総額は100万円です。) と答えないと答えないところでは、

微妙なニュアンスの違いで、とんちんかんなやり取りにならないように気を付けたいですね。

(担当：池田)